第１回信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会　議事録

１　日　時　　令和元年１１月１１日（月）　１５：１５～１７：００

２　場　所　　福島市役所４階庁議室

３　出席者　　委員

西内　みなみ 委員長、奥本　英樹 副委員長、薄　真幸 委員、菅野　真記子 委員
佐藤　祀男 委員、加藤　勝夫 委員、渡邉　仁 委員、谷　美和 委員
若林　初美 委員、本田　政博 委員、斎藤　可子 委員、後藤　洋孝 委員
遠藤　直紀 委員、奈良輪　和子 委員、志賀　裕悦 委員、春山　哲郎 委員
村川　友彦 委員、鈴木　深雪 委員

オブザーバー
小浪　尊宏（代理：下田　一朗）、外川　泰司、茅原　稔

４　内　容

（１）開会
（２）委員長及び副委員長選出
（３）議事
①委員会の役割について
②風格ある県都を目指すまちづくり構想について
③信夫山の現状と課題について
④今後のスケジュール
（４）その他
（５）閉会

５　概　要　　議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

６　委員の主な発言

①委員会の役割について

意見なし

②風格ある県都を目指すまちづくり構想について

（委員）

資料が小さい。図面はせめて倍の大きさにしてほしい。

（事務局）

図面は、後日大きなものを配布する。

（委員）

本日１８名の委員が委嘱されたが、これ以外のメンバーの追加はないのか。まだまだ信夫山に詳しい方はいると思う。

（事務局）

様々な分野の方から委員を１８名お願いしたところであり、まだ１８名の方からの意見もいただいていない。今回は、これ以上委員を増やす予定はない。

（委員）

教育分野から、第四小学校の方が委員になっているが、例えば第三小学校も信夫山に近い。

（事務局）

委員の依頼にあたり、小中学校 PTA 連合会に委員の推薦をお願いしたが、教育分野からは２名ということでお願いした。

今回お願いしている方以外にも各団体からの意見は福島市のホームページで募集しているのでそちらも活用したい。

③信夫山の現状と課題について

（委員）

福島青年会議所では信夫山でイベントをしている。

信夫山は福島市のシンボルということで、もっと信夫山を知ってほしいと思い事業をしている。代表的なイベントの中で青年会議所が関わっているのは二つしかない。イベント自体が少ないと感じている。パークランニングレースで約 1,400～1,500 名、福男福女競走（暁参り）で約 1,000 名を呼んでやっているが、弱点として駐車場が周りに無いため、1,000 名規模の人を迎え入れることができない。

花見山だと駐車場の規模が違うため、人を迎えられる。訪れる人が少なければそれだけ信夫山の利用が難しくなってくる。公園などもあるが、車を利用しないと子供を連れて坂を登れないので、利用しづらいというのが小さい子を持つ親の感覚だと思う。多くの人の目に付かなければ意味が無いというのであれば、やはり多くの人を受け入れられるような体制が必要だと思う。

例えば、文化センターと連携して信夫山の仮駐車場としての利用ができないかと（市から）話していただければと思う。

青年会議所もお金を払って文化センターの駐車場を借りたり、市役所の駐車場から臨時バスを出したりして人を集めるためにお金を費やすということをやっているので、そういったものをもう少し減らせるのであれば、もっと信夫山に人を集めるようなイベントを色々な方が簡単にできるのではないかと考える。

二点目だが、あくまで公益法人なので利益は求めているわけではないが、資金が尽きた場合にはこれらのイベントができなくなる。今は、OB による協賛や広告協賛などという形で予算を集めているが、スポンサーとなる企業の経営状況等々で協賛金が上がったり下がったり、多く集まったり少なかったりと非常に不安定な状況になるので、会員数も徐々に減っているような状態でイベントを維持していくには、ある程度イベントを商業ベースに乗せなくてはいけないと思っている。

ただ、商業ベースに乗せるとなると今使っているのが福島市の公園などで露店を出すのに使用料が高くなったり、許可を取るのが難しかったりするため、商業ベースに乗せることができない。

現在は、色々な企業にイベントを持ってみないかと提案をしている。テレビ局や新聞社などにも声をかけているが、収益が見込めないのでなかなか受けてもらえていない状況にある。

イベントを止めてしまうと今まで来てくれていた人が減ってしまうので、定期的に信夫山に人を来させるような仕組みを作るのであれば、少し信夫山に商業利用という形で規制緩和し、色々な事を優遇していただけると非常にありがたいと思う。商工会議所の方から信夫山を利用してレストランなどできないかと話を受けたこともあるが、それも色々壁があり難しいと話したことがある。儲けたいと言うわけではないが信夫山に人が来るのを維持できるぐらいの利益を生むような商業的利用がある程度優遇されるような仕組みにしてほしい。

（委員）

私は実際４月の花見山の季節に駅前で案内活動をしている。東京や関西などから多くの方が来る。その方々が、信夫山を指差し「あの山に一時間で帰ってこられる？」「山の上においしいものある？」「何か楽しいものある？」と聞かれるが実際は何もない。問題はまずそこである。人を呼ぶことをまず考えたい。「一時間でもいいからあの山を登りたい。」これが全国の皆様の声だ。

（委員）

信夫山がどういう山なのか、あるいは市民がどんな風に見てどう思っているのか分かっておく必要があると思っている。

まず、市民が信夫山をどんな風に思っているかと言うと、市民の方に「あの山をなんと呼びますか？」と聞くと、「御山」と呼ぶ。何故そう呼ぶのかというと、信夫山に対する尊敬の念があるからである。宗教ではなく信仰が非常に強い。信仰の山という事をまずは念頭においてもらいたい。

信仰もたくさんある。一番は羽山信仰である。東北南部に多く、先祖が里山に近い低い山に魂を奉って永遠に見守るというもので、信夫山も羽山と月山と羽黒山の３つからなる。羽山は里人と結びつきが強い。松川町の「羽山ごもり」は国の無形重要文化財に指定されているがこれと同じように信夫山も羽山ごもりを大正時代までやっていた。

そういう意味でも市民にとって信夫山はそういう信仰の御山である。先ほど配布された六供集落調査報告書の１ページ目の「奥州信夫郡福嶋領御山村絵図」は元禄時代に描かれたものであるが、よく見ると今も形が変わりない。そんな場所は他に類はほとんど無く、なぜ市民がそれを誇れないのかと思う。

市民がもっともっと信夫山を知らないと本当の信夫山の活かし方はできないと思う。市民に対して信夫山の事について知ってもらえる場所として、例えば博物館や資料館などを利用し、歴史、動植物のことについて知って貰える機会と場所を作らないと信夫山はなかなか理解されない。色々と催し物などをやってもらっても構わない。市民に信夫山の本当の中身を知って貰いたい。それが最初だと思う。

（委員）

月山で国宝級の出土品があったと新聞で見つけたが、これを福島に持ってこられないかと学芸員の人が言っていた。あんなに景色の良い所は無いし、図書館や立派な美術館が見え、自分の街を見下ろすのは最高の展望台だと思うが、道路をつくるのは反対である。道を歩いて良いと思う、そんな素敵な山である。そのような見方を市民が自分で確かめる、そして市民で広めることが大切だと思う。

タイトルの「信夫山の資源を活かしまちづくり」と言うのが気になっており、信夫山がどんな山なのか市民が意識して分かることが必要である。

信夫山を守る会が３．１１の震災以降、放射線量の測定を５年間続けてやった。0.23 マイクロシーベルトよりまだ高く、高すぎると風評被害などの恐れがあるが、事実を皆さんに知らせるべきだと思う。

市民の皆さんも関心を持つのも大切である。私は中学三年間、信夫山で蝶集めをしており今でも標本があるが、その標本を使って第三小学校の総合学習などに参加していたが、震災以降保護者からの放射線に関しての意見があり活動できなくなった。

小学生や市民の方に不法投棄などの現実を知らせる事が必要だと思う。絶滅危惧種の蝶などもいる。草が生えすぎているために不法投棄もあると思うので、クリーン作戦などもして信夫山を大切にしてもらいたい。

（委員）

私は元々御山の住人であり、昔から信夫山を何とかしようという話は出ていたが、一向に進んでこなかった。

今回のポイントは木幡市長の政策の中に信夫山を何とかしたいということが入っていることである。御山地区だけでも何もできない。清水地区の全体、自治振興協議会でずっと取り上げてきたが、一向に進まなかった。それは保安林の問題、風致地区の問題など様々な規制がかけられていたからだ。

過去にシンポジウムを開催し、色々な意見を頂戴したこともあったが、今回は官民一体となりスタートする事に非常に意義があると思う。そうでなければ民が一生懸命に動いても、官の方で何もお手伝いいただけない。

花見山がこれだけ多くの人が集まるようになったのはどう言う結果だと思うか。例えば、信夫山にお金をかけられないと言うことは、信仰、宗教上の問題で規制がかけられていてお金が出ない、花見山は民間の場所だから福島市として数千万のお金が出ているというのも聞いている。こういう事が足かせとなって進んでこなかったという事が大きな要因であると思う。

さらには、信夫山は御山裏と言い、昔は犬も怖がる非常に辺鄙な場所であった。しかし１３号線のトンネルが開通し大きく変わった。山の裏にも「御山千軒」といって非常に歴史のあるところが沢山ある。そういったことも含め裏も表も大きなポイントで結んでいかないと、いくら宝の山があっても「福の島」はクリアできないと思う。

震災の際には、信夫山の上にどうして仮置場を造ったのかと大きな問題になり、毎晩電話で嫌がらせを受けた。「この山の上に汚染土壌を置くとは何事だ」と。しかし、きちんと理由をお伝えしてきた。民地の土地だから市に貸した。これが福島市の山だったら不可能だったと思うが、そのような理由で、お貸しした。前小林市長も非常に喜ばれて、これが市内の汚染排出の進んだ一番の理由だと思っている。

そんなこともあって自然のままがいいのはわかるが、これからは道路を拡幅し、汚染土壌を運び出す道路を作る予定であり、まもなく始まる。令和３年までに汚染土壌はなくなり、そうすると官と民がタッグマッチを組んでやっていけば、もっと進むと思う。

私は民の方の再生プロジェクトも仰せつかっている。民の方はみな一生懸命なので市の方に応援していただきたいと思う。

（委員）

信夫山に住んでいる身としての現状だが、まず、子供がいない。今も何軒か空き家があり、今後どんどん増えると思う。

現在でも放射能のせいで柚子の出荷停止が続いており、そのため柚子畑の手入れや収穫をする人がおらず、地元の環境整備ができていない状態である。

また、道路周辺の立ち木に、松くい虫だけでなく楢枯れの問題も発生しており、雨や台風などで倒れそうな危険な状況である。そのため活用を考えるにしても「どうぞおいでください」と迎え入れられる安全な環境ではない。町内会の現状は厳しいということを知ってもらいたい。

（委員）

放射線量はこれから信夫山に子供さんが来られるようにするのに、公式な情報を公表するべき。整備等をやるにあたって最低限の条件なので、きちんとした公式な情報を出していただきたい。

（事務局）

線量については、公園のモニタリングポストは現在も稼動している。また、公園については毎年二回、ホームページで線量を公表している。ただし、山の中や道路から外れた所などの情報は出していない。

測っている公園は、駒山広場、太子堂広場、第二展望台、第一展望台など主に人が入れるような所で、ホームページに挙げている。

（委員）
信夫山の麓には県立美術館、県立図書館、文化センターなどの施設もあり、回遊性を考える際、市の施設だけでなくそういったものを含めた検討が必要だと考える。

（委員）
花の写真館がずっと閉まっているが、今後市は、どの様にするのか。
（事務局）
東日本大震災で被災し、石造りという特殊な構法のため修復が遅れている。ある程度目処が立ったので今年の１０月から再整備を開始し、令和２年度末には再整備を終えてその後開館する予定である。

（委員）
今回色々な意見が出ているが、意見の一本化を行ったり優先順位をつけたりするのではなく、プランA、Ｂ、Ｃという形で同時進行していただきたい。
委員の方の発言を聞いていると、信夫山に近しい方ばかりで、私は住んでいるところが信夫山から少し離れている。実は青年会議所に入るまでに小学校以来、信夫山に十数年間いっさい入ったことはない。我々のメンバーも子供の頃ぶりぐらいに信夫山に来た人がほとんどの状態である。
また、市民でも信夫山から少し離れていると当たり前にありすぎて、登る意味がない。信夫山に登る事をしていないのではないかと感じている。
そのためイベントを通して信夫山に来て貰うのが一番。できれば検討会のメンバーを増やしていただきたいが、難しいのであれば市役所の１～２年目の職員を委員会に出席させるなどして、意見を求めるのも必要だと思う。
玄人好みの信夫山にするのか、広く浅くみんなの楽しめる信夫山にするのかというところで感覚がずれてしまうのではないか。客観的な意見を聞いた方が、活性化するためにいい意見になるかもしれない。
例えば、暁参りは元々、恋人たちのお祭りだった。文化やお参りではなく夜に恋人と出かけられるというそんな風俗的な（よろしくないのかもしれないが）そのような意見が、重要ではないか。

（委員）
我々の若い時は、信夫山に隠れ家を作ったり、雪が降ったらそり遊びをしたりと格好の遊び場だった。
昔、信夫山から名前を取った「信夫山」と言う関取がいた。

（委員）
我々の若い時は、車の免許を取ったら信夫山に夜景を見に行くという時代だった。色々歴史はあるが、足を運んで実際に見ていただいて知ってもらうのは大事で、行きやすさを検討しないといけないと思う。
空き家が増えているとの話だが、調整区域に入っているので、例えば空き家カフェを営むことが流行っているが、区域内でできないので緩和事項が必要である。
ハザードマップを見ると文化センターが一時避難所に指定されているが、先日の台風の時、文化センターにいて早々に帰宅を促されてしまい、一時避難所としての機能を果たせているのか、疑問に感じた。

（委員）
宗教だから補助金が出ないとの話があったが、誤解がある。宗教と信仰は異なるものであり、信仰については松川の羽山ごもりに対して国からしっかり補助金が出ている。
信夫山での遊びやグルメも解るが、「まちづくり」として信夫山をどの様にするかと言う検討会なので、信夫山の事を知った上で、そこから色々考えてみてほしい。信夫山が玄人の山とかそういった意味ではない。

（委員）
野鳥の会で一か月おきに夏は６時、冬は８時から信夫山を歩いている。活動内容としては第一、第二展望台を回って自然に親しんでいるが、自動車の通行で事故発生のないように常に注意しながら歩かねばならない状況である。
舗装された旧参道は滑りやすくなっており、可能であれば、階段を整備していただきたい。
また、除染作業の影響でマンサクの花が見られなくなってしまったのは残念なことで、自然はできるだけ残すよう配慮願いたい。
除染物の保管などにより土地造成が行われた場所は復元してもらいたい。

(委員)
信夫山へ配達を行っているが、階段やスロープが無く急斜面な所もあり男性に頼んでいる部分もある。女性でも歩きやすいように、道路全体を直せなくても、階段やスロープがあれば良いと思う。
柚子の出荷停止についてはJA組合から多く問い合わせがあり、対応しているが、早く出荷停止が解除になると、とてもうれしいと思っている。

（委員）
昔、信夫山に住んでいて、その頃に比べて景観が随分変わったと感じている。
街中で商店を営んでおり、時々、お客様から「あの山はどうやって登るのか」と聞かれるので、説明しづらいので案内板がほしいと思う。

（委員）
第四小学校では、震災前は必ず遠足で信夫山に登っていたが、震災後は行かなくなった。現在は小中学校の総合学習などで行く機会が復活しており、良い事だと感じている。信夫山に近い小学校だけでなく、市内のすべての小学校で信夫山に登る機会を設け、小さいうちから知ってもらえたら良いなと思う。

（委員）
信夫山の麓の学校に通い、部活などで毎日のように訪れていても、今回資料を拝見し信夫山の全く知らないことが沢山あり、奥深い所だと思った。
教育の面で、授業や総合学習などで信夫山の学びを深めれば、子供のうちから故郷の信夫山について考える機会を増やせると思う。
放射能の問題が無ければ、クリーンアップ作戦に中学生も参加したりして、身近に山の問題を感じられたらいいと思う。

（委員）

皆さんの様々な意見を伺い、まず何よりも思う事は、信夫山を何とかしたいということは昔から言われていたが、現状はどうかということである。環境や自然を保全するという視点や、あるいは市民の憩いの場にする、もっと親しみの持てる山にするということ、信夫山を使った観光振興など、何も成し遂げていないのではと思う。

例えば自然環境の保全一つとっても、松くい虫や楢枯れの話もあり、ただでさえ信夫山は二種樹林なので、元来木が弱い。そこに、手入れをやる人がいなく、自然環境が悪化している。

市民の憩いの場所だといっても、これから信夫山を担っていく若い世代がどれだけ信夫山の事を知っていて、どれだけ信夫山に足を運んでいるかというと、例えば福島大学の学生を烏ケ崎に連れて行った際に、これまでに来たことがあるかを問うと、30 名中 1 名しか行ったことがないという程度であった。それ位の認知度で考えたときに大事な事は、ただスローガンで信夫山を何とかしましょうだけでは不十分であり、本気になって動いていかないといけない。

明確なビジョンとミッションという話が出たが、まさにそのとおりである。「信夫山はこうであるべきだ」とまず明確に決めたら、どんなアプローチでも、まず動いていかないと、恐らく変わらないのではないかという気がする。

この委員会で、それぞれの立場の考えをどんどんぶつけて、よりよい信夫山のかたちになるような明確なビジョンをつくって、そこに向いているものであれば動ける人がどんどん動いていくということをやっていかないと、たぶん 10 年後に何も変わっていないという状況になるだろう。

空き家が増えたり、お宮が朽ちたり、自然環境がさらに悪化したりするだろう。ごみや不法投棄の問題は、まさに人が見ていないから起こる問題であり、それだけ信夫山から人が離れていることの表れだと思うので、そういったことのないようにしたい。

市民が本気になって信夫山を親しみの持てる山にするのであれば、動けるところからしっかりと動いていかないといけないのではないか。

この会議で、皆様が熱い思いを持っていることがわかった。回数は少ないが、どうやったら信夫山を変えられるかというところまで持っていければ、すごく生産的だと思う。

（委員長）

本日の委員会では、色々な方から多面的に信夫山への思いを語っていただけた。

共通していたのは「知るべきだ」ということだったと思う。知らないことが多すぎるし、知らない人が多すぎる。「知らない」ということが、何よりも私たちの大きな課題だと痛感した。

どうやって市民やあるいはインバウンドで来る人たちに信夫山を知っていただき、豊かな資源と環境を守りながらそれを人々に告げ知らせていくかというミッションを達成していきたい。

次回は、このミッションとビジョンをもってしっかりと行動計画を立てていきたい。それぞれの分野で発言をいただき、市に多大な要求を突き付けていきたい。

④今後のスケジュール

意見なし